

Windowsの総入れ替えで トラブルを解決

システムイメージがあれば「イメージでシステムを回復」

●「システムイメージからの復元」を使う理由

起動ディスク全体をイメージファイルとして別のディスクに保存

いつでもこの状態に戻せる



図1 正常なときにドライブを丸ごとシステムイメージとして保存。そのイメージファイルで調子の悪いシステムを上書きすれば、元の状態に戻せる

○ メリット

- 健康な状態に戻せる
- アプリケーションなどの再インストールが不要
- 新しいディスクにもインストール可能
- リカバリーディスクがなくても復元可能

× デメリット

- システムイメージを保存していないと使えない
- 保存後に作成したデータやアプリケーションは削除される

●システムイメージのバックアップを作成する

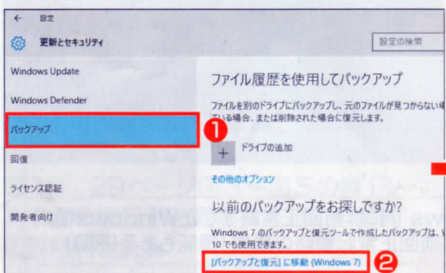


図2 「更新とセキュリティ」で「バックアップ」を選択(1)。「[バックアップと復元]」に移動(Windows 7)」を選ぶ(2)

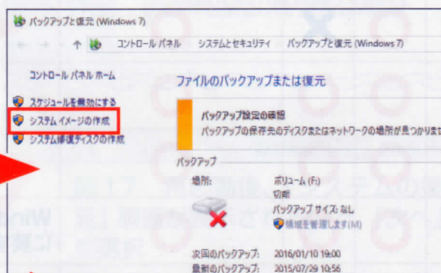


図3 「バックアップと復元」画面左側のメニューから「システムイメージの作成」を選択

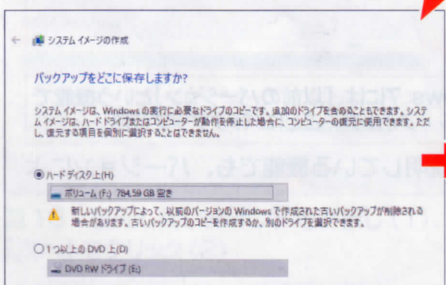


図4 バックアップの保存先を選択する。ハードディスク、DVD、ネットワークドライブの保存場所とバックアップするドライブから選択できる

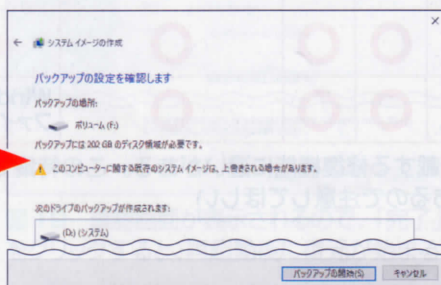


図5 確認画面が表示されたらバックアップの確認

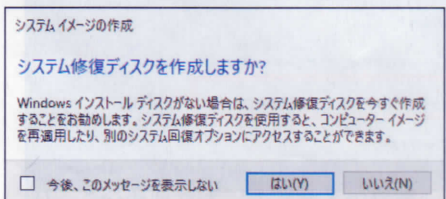


図6 最後に修復ディスクの作成画面が表示される。必要な場合は「はい」を選び、空のDVDをセットする

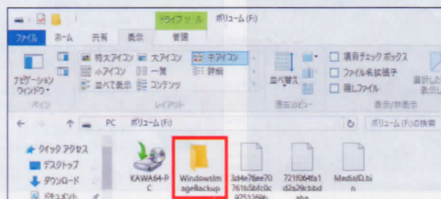


図7 保存先のドライブを開き、「WindowsImageBackup」フォルダーがあればバックアップ完了だ

パート2の修復に失敗した場合、最後の砦となるのが「システムイメージからの復元」「初期状態に戻す」「リフレッシュ」の3つだ。これらの機能でリカバリーできなければ、自己解決を諦めるしかない。

これらの機能は、Windowsだけでなく保存したデータやインストールしたアプリケーションにも影響する。それでも可能な限り元の環境を残し、起動できる状態にしたいなら試す価値はあるだろう。

ドライブ丸ごと総入れ替え

「システムイメージの復元」とは、Windowsを含むドライブ全体をコピーしたシステムイメージを使って復元する機能だ。トラブルが起こる前にシステムイメージを作成しておけば、ドライブの内容をその時点まで戻せる(図1)。

システムイメージのメリットは、データやアプリケーションも含めて、ドライブを丸ごと保存できること。また、Windows 10にアップグレードした場合、「初期状態に戻す」や「リフレッシュ」では以前のバージョンに戻ってしまいが、この方法ならその心配もない。

逆に最大のデメリットは、バックアップしていない限り使えないことだ。また、バックアップが古ければ、それ以降に作成したデータなどは消えてしまう。

システムイメージのバックアップを作成するには、Windowsが入っ

ているドライブの使用量より容量の大きいディスク装置が必要だ。DVDにも保存できるが、データなどが多ければ数十枚のDVDが必要になる。保存先のディスク内容は削除されるので、消してもよい外付けハードディスクなどが最適だ。

バージョンで異なる作成方法

システムイメージのバックアップ方法は、Windowsのバージョンによって異なる。

Windows 10では、設定画面の「更新とセキュリティ」で「バックアップ」を選び、「[バックアップと復元]に移動(Windows 7)」を選ぶ(図2)。「システムイメージの作成」を選び、バックアップするドライブや保存先を指定すれば作業が始まる(図3～図5)。最後にWindowsのインストールディスク代わりに利用できる「システム修復ディスク」の作成画面が表示されるので、必要に応じて作ればよい(図6)。保存先のドライブを開いて、バックアップができたことを確認しておこう(図7)。

Windows 8.1の場合、コントロールパネルの「システムとセキュリティ」で「ファイル履歴」を選び(図8)、「システムイメージバックアップ」を選ぶ(図9)。

Windows 7の場合は、「システムとセキュリティ」のコントロールパネルで「バックアップと復元」を選択する(図10、図11)。

保存したシステムイメージから復旧する方法は、Windows 8以降変わっていない(7の場合は33ページ図Cから選択)。バックアップしたドライブを接続後、回復画面などが

●Windows 8.1でシステムバックアップを作成

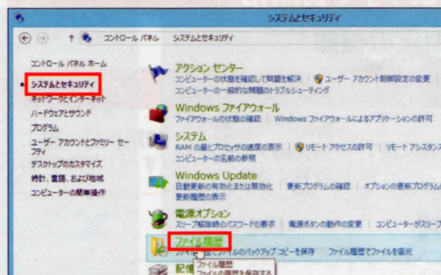


図8 コントロールパネルを開き、「システムとセキュリティ」→「ファイル履歴」と選択

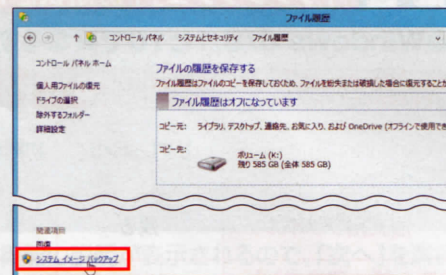


図9 左下にある「システムイメージバックアップ」をクリックし、画面に従って保存先などを指定

●Windows 7でシステムバックアップを作成

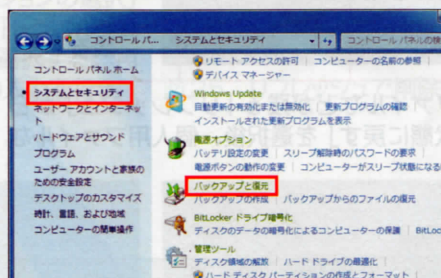


図10 コントロールパネル→「システムとセキュリティ」→「バックアップと復元」と選択

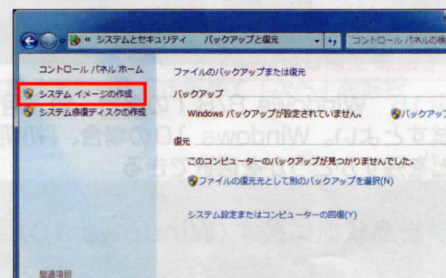


図11 左側にある「システムイメージの作成」をクリックし、画面に従って保存先などを指定

●「イメージでシステムを回復」する手順

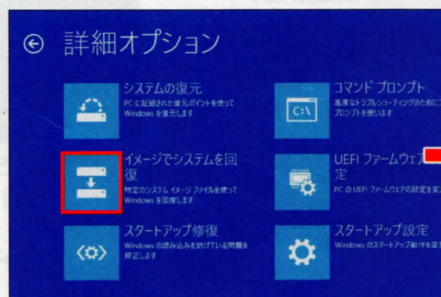


図12 29ページ図3～図5の手順で「詳細オプション」画面を開き、「イメージでシステムを回復」を選択。再起動後、アカウントやパスワードを指定

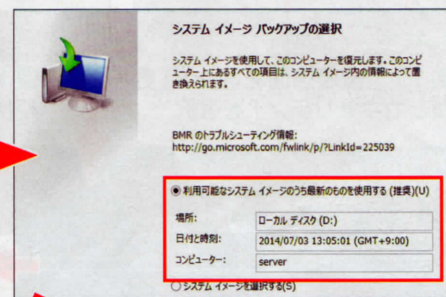


図13 どのバックアップから復旧するかを選択する。最新のバックアップファイルが自動的に表示されるので、通常はそのまま次に進む

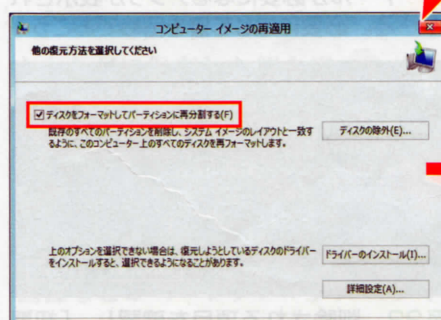


図14 必要に応じて「ディスクをフォーマットしてパーティションに再分割する」を選択

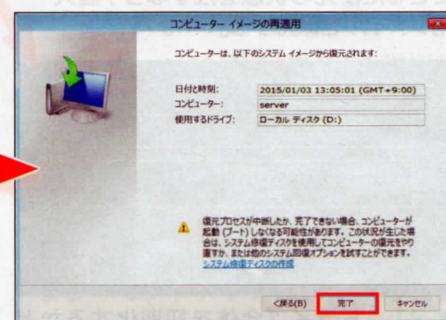


図15 確認画面が表示される。「完了」をクリックすれば復元が始まる

「リフレッシュ」「初期状態に戻す」で初期化

●Windows 8/8.1と10で異なる初期化の機能

	8/8.1		10	
	リフレッシュ	初期状態に戻す	初期状態に戻す (個人用ファイルを保持する)	初期状態に戻す (すべて削除する)
個人用ファイル	残る	×	残る	×
ユーザーアカウント、 個人用設定	残る	×	残る	×
追加した ストアアプリ	残る	選択可能	×	×
追加した デスクトップアプリ	×	×	×	×
Windows Update で追加・更新した機能	×	×	残る	残る

図16 Windows 8/8.1の場合、個人用ファイルなどが残る「リフレッシュ」から試すとよい。Windows 10の場合、「初期状態に戻す」を選択後、個人用ファイルなどを残すかどうかを選択できる

●初期状態に戻す (Windows 10)

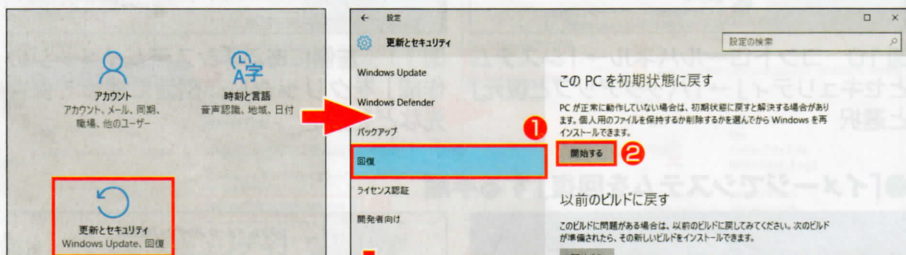


図17 設定画面を開き、「更新とセキュリティ」を選択

図18 「回復」を選択し(1)、「このPCを初期状態に戻す」の「開始する」を選択(2)

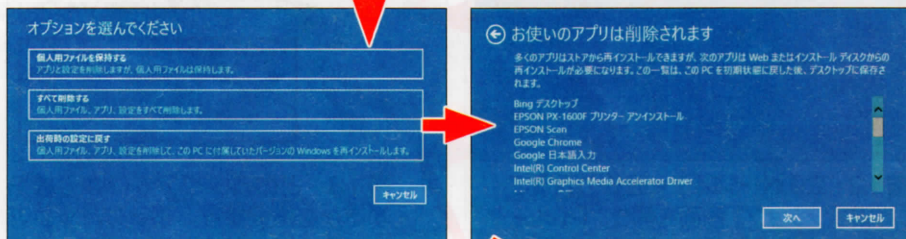


図19 初期化のオプションを選択。できるだけ元の状態を残すなら「個人用ファイルを保持する」

図20 初期化することで、再インストールが必要になるアプリが表示される。必要に応じて書き留めておこう

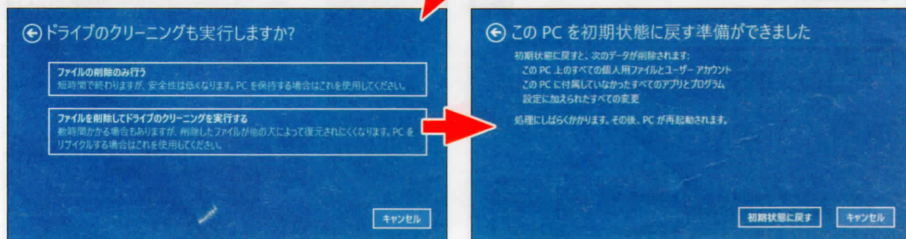


図21 ドライブ全体を初期化するかどうかを選択する。パソコンを廃棄する場合などはクリーニングした方がよい

図22 削除される項目を確認し、「初期状態に戻す」を選択すると、Windowsの再インストールが始まる

ら「詳細オプション」画面を呼び出し、「イメージでシステムを回復」を選ぶ(図12)。最新のバックアップが表示されるので確認し(図13)、リストアする(図14、図15)。

最終手段で初期状態に戻す

ここまでの修復で起動できない場合、Windowsを初期状態に戻すしかない。そのための機能が、「リフレッシュ」と「初期状態に戻す」だ。この2つの機能は、Windows 10では「初期状態に戻す」に統合された。いずれの場合でもWindowsは初期状態に戻り、後からインストールしたアプリケーションやドライバーは再インストールが必要になる。

選択する機能やWindowsのバージョンによっては個人用ファイルなどを残すこともできるので、よく考えて選びたい(図16)。

Windows 10で「初期状態に戻す」を実行するには、設定画面で「更新とセキュリティ」を選び(図17)、「回復」の「このPCを初期状態に戻す」の「開始する」を選ぶ(図18)。

Windows 10の場合、「ドキュメント」などに保存した個人用ファイルを残すかどうかを選択できる(図19)。残したければ「個人用ファイルを保持する」、まっさらな状態に戻したいなら「すべて削除する」、Windowsを工場出荷時のバージョンに戻したければ「出荷時の設定に戻す」を選択する。

再インストールが必要なアプリケーションが一覧表示されるので、メモしておこう(図20)。

クリーニングの選択画面では、時間をかけたくなければファイルの削

●リフレッシュ (Windows 8/8.1)

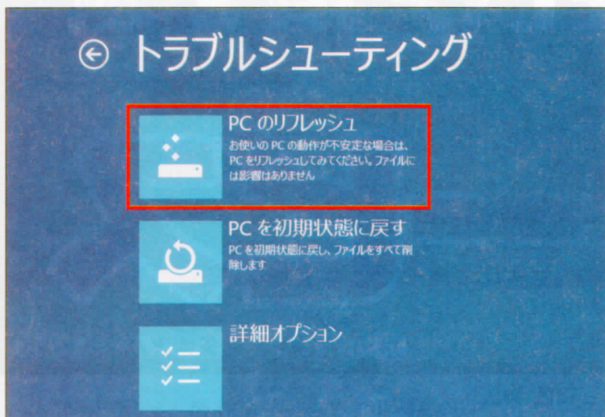


図23 29ページ図3、図4の手順で「オプションの選択」画面から「トラブルシューティング」を選択。「トラブルシューティング」画面で「PCのリフレッシュ」を選択する。再起動したら、アカウントの選択やパスワードの入力を行う

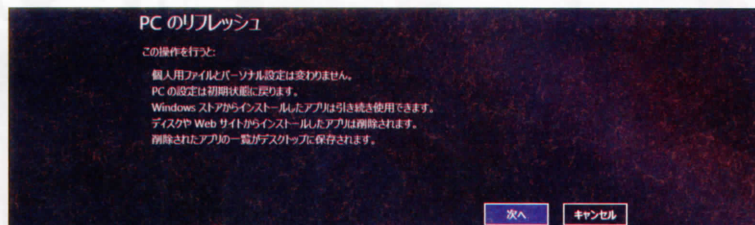


図24 「PCのリフレッシュ」機能の説明が表示されるので、「次へ」を選択

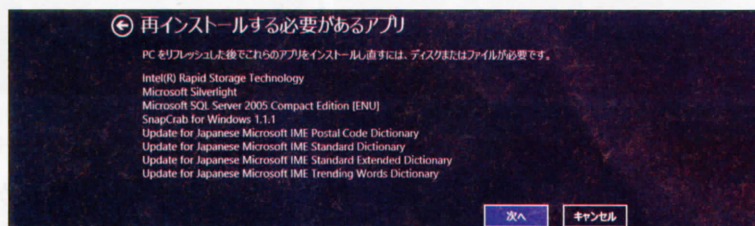


図25 リフレッシュで削除されるアプリを書き留めて「次へ」を選択

●初期状態に戻す (Windows 8/8.1)

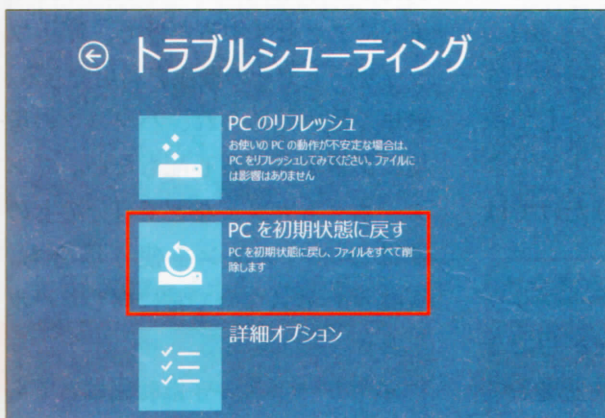


図26 29ページ図3、図4の手順で「オプションの選択」画面から「トラブルシューティング」を選択。「トラブルシューティング」画面で「PCを初期状態に戻す」を選択する。再起動したら、アカウントの選択やパスワードの入力を行う

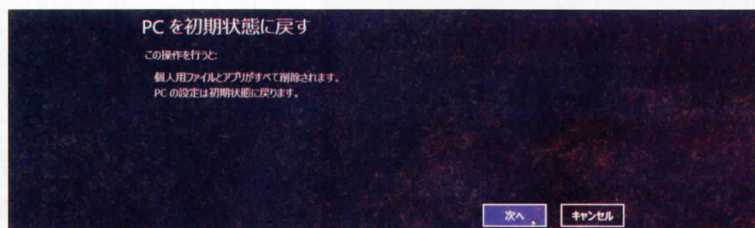


図27 「PCを初期状態に戻す」機能の説明を確認し、「次へ」を選択

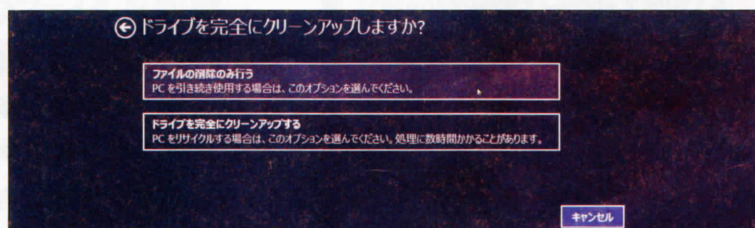


図28 ドライブ全体を初期化するかどうかを選択

除のみを行う(図21)。パソコンを人に譲るような場合は、削除したファイルを復元できないよう、クリーニングの方が安全だ。最後に削除される項目が表示されるので確認し、初期化を実行する(図22)。

8/8.1では2種類から選択

Windows 8/8.1では、Windowsを初期化する機能として、「リフレッシュ」と「初期状態に戻す」の2種類がある。どちらの場合もWindows

自体は工場出荷時の状態に戻るため、8.1にアップデートした場合は8に戻ってしまう。

「リフレッシュ」は、「ドキュメント」などに保存した個人用ファイルやアカウント設定などが残るが、「初期状態に戻す」ではほぼ全てが工場出荷時に戻る。

「リフレッシュ」を行うには、回復画面などから「トラブルシューティング」画面を表示させ、「PCのリフレッシュ」を選択(図23)。削除さ

れる機能やアプリケーションがある場合は 覧が表示されるので、確認してから実行する(図24、図25)。

「初期状態に戻す」場合、「トラブルシューティング」画面で「PCを初期状態に戻す」を選ぶ(図26～図28)。

回復画面が表示されず、回復ドライブなども作っていない場合でも、パソコンの機種によっては、BIOSなどのセットアップ画面から修復機能を起動できる場合があるので、取扱説明書を確認してみよう。